

一輪の花に込めた思い。卒業生の旅立ちを飾る――

平成17年度から、初倉中学校（以後、初中）の卒業式に合わせ、卒業生と教員たち全員にガーベラを贈っている田代さん。卒業生の胸に咲く赤いガーベラは、文字どおり彼らの新たな旅立ちに、花を添えています。

【自分なりの恩返し】

ガーベラを贈り始めたのは、娘さんが初中2年生のときだったそうです。「あのときの初中には、私の恩師が教頭として赴任していたり、同級生が教員でいたり、気軽に話を持ち掛けやすかったんです」と話す田代さんも、同じ初中の卒業生です。「私たちが3年生のとき、校舎を火事で焼失し、学用品の援助など、多くの企業や団体に助けられました。そんな体験を思



い出し、子どもたちに何かを贈ることで、恩返

しをしようと思っただけです」と、きっかけを語ります。

田代さんは「ガーベラを見たら卒業式を思い出す」、そんな存在になって欲しいそうです。

そんな中、花に魅せられたと言います。「花は見ていて面白いし、心を癒してくれました。イチゴをやめる訳じゃないけど、花を育ててみたくなったんですよ。しかもガー



JA 大井川^{わかき}花卉協議会 ガーベラ専門部会
田代^{たしろ}高嘉^{たかよし}さん（中河）

【新しいことに挑み続ける】
イチゴ農家の長男として生まれた田代さん。種苗会社に就職してハウス種^{たね}の販売をしながら、農業経営のノウハウを学びました。

ベラ作りは、当時の島田市では初めてのことで。ただ後を継ぐだけじゃなく、自分でやらやって、自分の手でガーベラを島田に持ち込んでみたくなりました」固い決意でガー

ベラ栽培に飛び込んだ田代さんにとつて、手探り状態の難しい状況ですら、楽しく感じられたに違いありません。気候や花の病気などに左右されやすいガーベラを育てるため、これからも田代さんの挑戦は続きます。

【これからの若者へ】

「昔は卒業式で、思い出しに男子から女子へ第二ボタンをあげましたよね。今はガーベラが、その代わりになることもあるようです」と、田代さんは笑顔で話します。これもガーベラが思い出の一つになった証し、恩返しが始まりかもしれません。

毎年贈られる真っ赤なガーベラには、もう一つのメッセージが添えられています。それは「常に前進」「チャレンジ」という花言葉にあります。「卒業とは旅立ちです。未来に向かって飛び立つ子どもたちには、簡単に諦めず、いろんなことに挑戦して欲しいんです」と、母校の卒業生たちへの思いを話してくれました。



ガーベラを胸に飾る
初倉中学校卒業生



Shimadian File #35